

令和 7 年度「市民と議会の意見交換会」報告書（速報）

（ 2 回 目 ） 班 名 ： 第 6 班

テーマ 「マチのにぎわいと公共交通について」

開催日時	令和 7 年 9 月 3 0 日（火） 午後 6 時 3 0 分から
開催場所	港西コミュニティセンター
出席議員	司会：宇川議員 記録：鈴木議員 オブザーバ：小野議員
参加者名	丸井 一徳、松下 悦子、下田 満、青山 貴幸、菅原 敏子
話し合い の項目等	マチのにぎわいと公共交通について

質問、意見、回答	質問意見等の要旨及び回答の要旨等
意見 1	人口減少が進み、本通りでは人通りがほとんどなくなっている。 シャッターが閉まった商店街が目立ち、かつてのにぎわいが失われている。
意見 2	活気がなく、人が自然に集まる場所がない。
質問 1	市役所や中央公民館、は一とふるなど公共施設のそばにバス停がなく不便。 バス会社の人手不足も理解しているが、市としてどのような取組みをしているのか知りたい。
回答 1	留萌市としては、運転手の確保については地域おこし協力隊という制度を使って、運転手の不足の対策をしていく考え。
意見 3	これからますます高齢化が進む中で、バスがなければ外出が難しくなり、引きこもりの原因にもなってしまう。
意見 4	障がい者や高齢者にとって住みにくいまちになっている。
意見 5	留萌市の魅力が失われ、住みづらくなっているため市外へ出て行く人が多い。
意見 6	人口減少によって、まちそのものが消えていく危機を感じる。
意見 7	空き店舗を活用し、若い人が開業できるような補助制度をもっと充実させてほしい。
質問 2	工業跡地の活用や、安い家賃でチャレンジショップを開けるような仕組みを整えてほしい。そうした取組みを、商工会議所・行政・市議会で話し合ったことがあるのか知りたい。
意見 8	地元で定年・退職を迎える人が少なくなっている。
意見 9	高齢者向けのバス無償化は嬉しいが、まちのにぎわいにつながるような「集まれる・楽しめる場所」がない。 子どもたちが留萌市外で暮らしているため、親も子どもの住む地域へ転居してしまうケースがある。
意見 10	若い人が少なく、また留萌に来ようとする若者も少ない。 現実的に考えると、魅力あるまちづくりは簡単ではない。
意見 11	高齢者を対象とした新しい施策が必要ではないか。

意見 12	バスの乗り継ぎが悪く、待ち時間が長いため、結局タクシーを使ってしまうことが多い。
質問 13	「は一とふる」前のバス停を復活させてほしい。なぜ撤去されたのか理由を知りたい。
意見 14	道の駅るもいと連携し、「夏の海のまち・留萌」の魅力をもっと発信していくべき。
意見 15	若者が地元にもどってくる施策を考える必要がある。
意見 16	バス路線のつながりがよくなるように時刻表の見直しをしてほしい。
回答 16	市立病院直行便のバスの導入を検討している。ダイヤ改正で増便もしているし、留萌セントラルクリニックや記念病院前など、病院の前にもバス停を設けている。
意見 17	道の駅にきたら低価格で海鮮丼が食べられるなど、町につながるような街づくりをしたらよいのでは。
回答 17	新交流複合施設へ市庁舎、公民館を移設する内容で市民会議の中で検討している。今候補になっているのは旧留萌駅の近辺なので、商工会議所と提携してやっている中では、チャレンジショップやフードコートのようなものを民間の活力を導入してやりたいというような構想はある。
意見 18	人がたくさん乗るバス停は屋根付きにしてほしい。